



本園の特色

- 1.キリスト教の精神による情操豊かな人格教育を行います。
- 2.遊びの時間を十分に確保することによって主体性が育ちます。
- 3.自然豊かな広い園庭と自然を活かした遊具が身体の育ちを支えます。
- 4.たくさんの体験活動が「生きる力」の基礎を育てます。

教育目標

神さまに愛されていることを知ることによって、
他の人を愛せる子どもに育てる

自分の意見や考えをしっかりと持ち、
友だちと共に行動できる子どもに育てる

物事に意欲的に取り組み、
最後までやり抜く子どもに育てる



ごあいさつ



幼児教育の重要性

東北学院幼稚園はキリスト教による人格教育を建学の精神としています。人知を超えた計り知れない神の愛に包まれて、スクールモットーLIFE LIGHT LOVE (神から与えられた福音に基づき、人々の命のために仕え、人々に光を与えるために働き、人々を自分のように愛する)に基づく幼児教育を行っています。このことによって、私たちは神の愛によって生かされているということを知ることになるのです。

最近では、幼児教育における非認知能力の強化が後々の社会的成功をもたらすと言われてしています。非認知能力とは、コミュニケーション力、リーダーシップ力、やり抜く力、協調性、忍耐力などを意味しています。これらの力を早くから鍛えるほど将来にプラスの影響があるとデータは示しています。こうした能力は様々な体験学習によって園児の心と体が鍛えられることを通じて獲得されることでしょう。これらのことを東北学院幼稚園では、日々の礼拝、豊かな自然環境をもつ園庭での遊び、中高大連携に基づくお兄さんやお姉さんとの触れ合いなどによって実践しています。

皆さまのお子さまの大きな成長のために、東北学院幼稚園を是非ともご活用頂きたいと思います。

東北学院理事長 原田 善教



キリスト教による人格教育

聖書の有名な言葉に「心を入れ替えて子どもにならないのであれば、決して天の国に入ることはできない」があります。これは、子どもの特性を的確に見抜いた言葉です。子どもは、その弱さゆえに神であれ、親であれ、信頼を寄せながら成長するものです。この言葉は、人間の成長には、愛と信頼、心の平安が大切であることを教えています。知識を身につけることも大切ですが、まずは、非認知能力といわれますが、人間の成長の土台となる愛と信頼、心の平安をしっかり身につけることが大切です。

東北学院幼稚園は、東北学院が設置する幼稚園として、「キリスト教による人格教育」という建学の精神のもとに幼児教育を進めてきました。東北学院は、小学校こそ設置していませんが、中学、高校、大学において、建学の精神に基づく智徳併行の一貫教育を目指しています。お子様が、神からも人からも愛される人間に育ってほしいものです。

東北学院院長
東北学院学長 大西 晴樹



遊びは学び

東北学院幼稚園では、遊びの時間を十分に確保しています。本園が考える遊びとは、与えられ、仕向けられたものではなく、自分で見つけ、いろいろ試しながらさらに楽しく発展させていく子ども主体の遊びです。遊ぶ材料を与えられなければ、方法を教えてもらえなければ遊べない子どもを育てるのではなく、試行錯誤しながら自ら遊ぶことができる子どもを育てます。

「たのしい」と思わず口からこぼれるほど夢中になって遊んだ子どもは、想像力や好奇心、探求心といった生きる力の基礎を大きく伸ばしていきます。そしてこの遊びの経験は、やがて学びにも「おもしろさ」を見出せる資質を育てていくことでしょ。

大きくなった時に、「楽しかった」と笑顔で振り返ることができる幼児期を共に過ごしていきたいと願っています。

東北学院幼稚園園長
島内 久美子